

## 非認知的能力を把握する横断的な試み

若山 昇<sup>1,6</sup> 草山 太一<sup>2</sup> 竹内 俊彦<sup>3,6</sup> 立野 貴之<sup>4</sup> 山本 美紀<sup>5,6</sup>

<sup>1</sup> 帝京大学法学部 <sup>2</sup> 帝京大学文学部 <sup>3</sup> 駿河台大学メディア情報学部

<sup>4</sup> 玉川大学リベラルアーツ学部 <sup>5</sup> 松蔭大学観光メディア文化学部 <sup>6</sup> CRET

非認知的能力は人生において重要とされており、社会情動的スキルとも言われる。非認知的能力は目標の達成、他者との協働、情動の制御に関わり、10代後半でも伸ばせるが、先行研究では非認知的能力を現実に測定した研究は限られている。本研究の目的は、非認知的能力を客観的に測定するため、新たに計測方法を開発し、類似尺度との関係を横断的に探索することである。非認知的能力とグリットやセルフコントロール等との相関を調べたが、既存の尺度との間に明らかな関係は見いだせなかった。非認知的能力は独立性が高いと考えられる。しかし、新たに開発したトラブル回避力と計画慎重度というテストゲームでは、相手の立場を想定する場合には関連が見られた。非認知的能力において、相手の立場を考慮することの重要性が改めて示された。

**キーワード**：非認知的能力，測定，ゲーム，テスト，パフォーマンス

### 謝辞

本研究の一部は JSPS 科研 19K03013, 21K02558 の助成を受けたものである。さらに、北澤武先生には、本実験の実施についてご協力を賜りました。

### 参考文献

若山昇, 草山太一, 竹内俊彦, 立野貴之, 山本美紀 (2021) 学生の非認知的能力を計測するための探索的研究, 教育テスト研究センターCRET年報, 6: 7-14